

教育目標		心豊かに、健やかに生きる子供の育成					
重点目標		(1)開かれ、信頼される幼稚園作り。 (2)みずほ幼稚園らしい教育の推進。 (3)豊かな心と体の育成。 (4)子供の育ちと学びをつなぐ連携。					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	自ら心を動かし育つ仲間の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマ「心を動かし育ち合う子供を育む姿」を研究の視点とし、自ら心で感じ考え行動する子供の育成に努める。</li> <li>保育計画は、月2回協議を行い、全職員で子供の姿について語り合ったり、関わりについて共通理解を図ったりする。教師の援助や環境構成の工夫について協議をし、心を動かし育ち合う子供を目指し保育に生かしていくようにする。</li> <li>研究テーマに沿った実践事例やエピソード記録を全職員で協議し、研究テーマに迫る保育実践に積極的に取り組む。</li> <li>心を動かし育ち合う姿に繋がるための教師の援助や関わり、環境構成の工夫について、日頃から振り返りの場をもち、更に園内研究会を毎学期に1回行い、職員全体での保育実践力を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月2回短期指導計画及び、3学級合同での戸外環境図を基に協議をする機会をもち、子供の実態や環境構成、遊びのねらい等の共通理解を図る場をもつ。</li> <li>また、保護者アンケートで「子供はやってみたいことを見つけ、存分に遊んでいる」と回答した割合が80%以上になる。</li> <li>事例研修を月1度のペースで行い、研究テーマを共通理解し、全職員で保育実践に繋げていく。</li> <li>園内研究会を学期に1回、夏季休業中に1回行い、市内研究発表会に向けて、研究を深めるとともに心を動かし育ち合う子供に繋がるよう保育実践を重ねる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>月2回の短期指導計画の話し合いをもつことで、一人一人の子供の育ちや課題について共通理解することができた。また、戸外遊びの環境構成やねらいについて話し合うことで、全職員で共通理解をし、子供達の育ちを支えていくことを今後も継続していきたい。アンケート結果では、80%に近い割合であったため、今後も引き続き子供のやりたいことや思いに添った保育を継続していく必要がある。</li> <li>事例研修を月1回のペースで行い、短時間でも語り合って研究テーマについて学び合う機会がもてた。</li> <li>園内研究会を学期ごとや夏季休業中にも行い、研究テーマを意識した研究を深めることができ、全職員の学びに繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も短期指導計画の話し合いの時に、子供達の課題や成長を共通理解したり、戸外遊びの環境について考え合うことで、保育に積極的に生かしていく機会となるよう、継続していきたい。</li> <li>事例研修については、短時間でも語り合う機会を今後も大切に、エピソードや事例を通して学びや機会を増やしていくようにする。</li> <li>園内研究会や、市内研究発表会で得た学びを今後の保育に生かし、学び続けると共に、子供たちが心を動かし、更に遊び込む姿につながるための保育について、学びを深めていくようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供も教師も『やりたいこと』を大切にしながら、日々保育を行ってきたことがよくわかる一年である。</li> <li>子供の好きなことが、生活のペースとなると、心に残る。それが今後にもつながっていくはずである。</li> <li>今後も幼児教育として大切なことを引き継いでいってほしい。</li> </ul>
	充実	インクルーシブ教育・保育の推進と	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的、計画的なインクルーシブ教育・保育の充実に努める。</li> <li>学期に1回以上、にじいろだよりを発行し、保護者に、本園のにじいろ保育の取り組みを伝えたり、インクルーシブ教育・保育について理解してもらえるよう啓発したりする。</li> <li>日常的に、担任と担当が幼児の実態を共通理解し、課題に即した支援を連携しながら実践する。</li> <li>昨年度末に実施したにじいろ広場に関するアンケートから、保護者のニーズを捉えた上で、親子の触れ合い遊びや子供の課題に応じた遊びを提供する、にじいろ広場を計画的に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者アンケートで「幼稚園は一人一人の発達の実態や課題に合わせ、その子に応じた指導を実践しようとしている」と回答した割合が80%以上になる。</li> <li>保育後や保育前に、担任と担当が子供の支援について話し、課題に応じた保育を実践していく。また、支援の方向性は適時、全職員で共通理解し、園全体で対象児を支援していく。</li> <li>参加園児につけたい力を意識したにじいろ広場を年間10回以上実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の保育環境の整備の時間や保育後の掃除の時間、学年のチーム会、職員会議を随時行い、支援の方向性を共通理解しながら、保育に取り組むことができた。</li> <li>にじいろ広場を15回実施した。子供の実態に応じて、広場の保育内容を工夫することで、子供たちは遊びながら課題に取り組むことができた。</li> <li>保護者アンケートでは、肯定的な意見が98%以上であったので目標は達成できているが、手厚い個別の指導のためにはもっと多くの職員が必要という意見もあったため、Bとした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて学年のチーム会等を行ってきたが、よりタイムリーにチーム会を行うことができれば、丁寧な支援につながると思うので、どうしようかと支援に悩んだ時には、教師一人で抱え込まず、積極的に声をあげ、複数の職員で考え合っていくようにする。</li> <li>にじいろ広場では、対象児一人一人の課題を基につけたい力を意識した遊びを提供するとともに、つけたい力を伸ばせていけるのか考察することも今後必要である。</li> </ul>

豊かな心・健やかな身体	人権教育の推進・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供・保護者へ人権教育を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分も友達も大切にすることや人への思いやりの気持ちを育てる保育を行う。</li> <li>・絵本や紙芝居などの教材をつかった活動や保護者懇談会、研修会を行う。</li> <li>・身近な生活の中で差別や偏見に気づき自分自身を見つめるというテーマで、保護者研修会を行い、保護者の方にも学んでもらう機会をつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートにおいて「幼稚園は、子供が園生活を通して、自分を大切にすることや、他の人への思いやりの気持ちを育てる保育を行っている」の項目の回答が80%以上になる。</li> <li>・人権教育につながる絵本や紙芝居を月に1回以上、園児に読み聞かせる機会をもつ。</li> <li>・月に1回バースデートークを行ったり、年間1回以上保護者懇談会を実施したりして、保護者の人権意識を高める。</li> <li>・DVDを使った保護者研修会を2学期に行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートで目標の80%を上回ったため、達成できた。</li> <li>・各学級で絵本を通して、自分も友達も大切にすることや、他の人への思いやりの気持ちを育てる保育につながる絵本を読むことができた。</li> <li>・バースデートークや、2学期には、学級懇談会を開き、保護者同士が互いを知るような機会をもつことができた。</li> <li>・今年は、2学期の参観後、保護者向けの人権研修(DVDを視聴して、地域とのつながりについて研修)を行い、今後どのように地域とつながっていくことができるかなどアンケートを取ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育についての絵本は各学年で共有することができなかったため、各学年でどんな絵本を選んでいるかなどの情報交換を行い、人権保育の充実を図りたい。</li> <li>・学級懇談で人権をテーマに話す機会を1回は設け、身近なことを切り口にしながら、園での取り組みなども伝えるようにしていく。</li> <li>・ブロックとして集まることは難しくても、自園のみでの研修を行い啓発する。</li> <li>・今回のように、身近なことをテーマにした人権研修を保護者とも行い、保護者の思いを知ることが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が人権について学べる機会を、今後も提供してほしい。</li> <li>・登降園で、子供も保護者も挨拶をしてもらえることが増えてきていて、地域でつながってきている。</li> </ul>
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な体力の向上に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の実態に合わせて必要な動きの経験ができるよう、保育の中で運動遊びを計画的に取り入れる。</li> <li>・学級で遊んでいる体操などを異年齢でも一緒に遊ぶことができるように計画を立て、実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で、身体表現や体操など体を動かす遊びを週に1回以上取り入れていく。</li> <li>・保護者アンケートにおいて「運動遊びの楽しさを感じており進んで戸外で遊ぼうとする」の項目の回答が90%以上になる。</li> <li>・年間を通して、子供たちが主体的に体を動かせるようなダンスや体操のコーナーを好きな遊びで設ける。(ダンスや体操の内容は、季節や興味に合わせて工夫をする。)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で、身体表現や律動など体を動かす遊びを週1回以上、保育に取り入れることができた。</li> <li>・保護者アンケートにおいて、目標の90%以上の回答を得ることができた。</li> <li>・好きな遊びでダンスコーナーを設けたことで、各学年の運動会のダンスを異年齢で踊ったり、新しい曲に振付をしながらダンスを楽しむ姿が見られるようになった。今後も子供が主体的に体を動かして遊ぶ楽しさを感じられるようにしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の実態に合わせて、いろいろな体の動きを経験していくことで、体を動かす楽しさを感じていたので、今後も子供の実態に合わせて、運動遊びを取り入れていく必要がある。</li> <li>・今後もクラスで歌っている歌や、ダンスを楽しめるような曲を教師間で選び、準備をしたり考えたダンスを見合えるような場を設けたりするようにしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢児が自然と関わり合って一緒に遊んでいるのがよい。</li> <li>・劇遊びでは、一人一人が表現遊びを楽しむ姿が見られてよかった。今後も伸び伸びと体を動かしてほしい。</li> </ul>
	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣を身につける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供が自ら清潔習慣を身につけられるように、環境の構成を考え設定する。</li> <li>・定期的に保健の話や外部からの保健活動を取り入れる。</li> <li>・保護者への啓発として、月1回以上の「ほけんだより」等を配布し、保健活動の様子を伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵や写真などの視覚的な表示をつけ、子どもが主体的に取り組めるようにする。</li> <li>・保健活動やほけんだよりを通して、家庭で健康について話し合い、取り組む機会をもつ。</li> <li>・保護者アンケートで「基本的な生活習慣の習得についての啓発」の項目の回答が80%以上となる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほけんだより、健康カレンダーの取り組みを通して、家庭で生活習慣について話し合う機会を設けることができた。</li> <li>・歯科医、歯科衛生士に歯磨き指導をしていただき、保護者にも保健活動の様子を伝えた。</li> <li>・保護者アンケートでは98%の肯定的な回答を得ることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健活動の取り組みから、必要な幼児にはさらに個別で生活習慣の見直しを指導する。</li> <li>・引き続き、市のガイドラインに基づき感染対策を講じる。</li> <li>・教師間で生活習慣面の子供の実態を共有することで、連携して子供に関わることができたため、今後も教師間での共有を続けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い場やトイレなど、子供にわかりやすい環境が整えられている。</li> <li>・今後も、基本的な生活習慣が身につくように取り組んでほしい。</li> </ul>

開かれた信頼される園づくり	教育活動への理解推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭や地域に積極的に情報発信する。</li> <li>登降園時のホワイトボード、学級懇談、ホームページなどを通して、写真や動画を用いて子供の姿や保育の様子を分かりやすく発信する。</li> <li>学級便りや園長便りを通して、園の教育や学級で大切にしていること等を保護者に発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>週に一度のペースでホームページを定期的、且つタイムリーに更新すると共に、更新したことを毎回登降園時のホワイトボードで知らせる。</li> <li>学級便りを毎月、園長便りを随時発行し、保護者への発信・啓発を図る。</li> <li>保護者アンケートにおいて、肯定的な評価が85%以上になる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページは、ほぼ週一回のペースで、且つタイムリーに更新できた。しかし、「もう少し頻繁にアップしてもらえると嬉しい」というような意見もあった。</li> <li>保護者アンケートを受け、3学期には各クラスホワイトボードを活用し、写真を通して分かりやすく保育の様子を保護者に発信するよう取り組んだ。</li> <li>GoogleClassroomも活用し、重要な連絡事項は確実に保護者に伝わるようにしたり、配布物のデータ配信への移行にも取り組み始めたりしている。</li> <li>保護者アンケートでの回答において、肯定的な意見が95%を上回ったが、ごく少数とはいえC評価も見られたためBとした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後もホームページ、ホワイトボードを活用し、日々の保育の様子を視覚的に分かりやすく発信する。その際に、管理職、担任、特別支援、保健など様々な立場の職員がそれぞれの視点、役割で発信、啓発していけるようにする。</li> <li>来年度からタブレット端末を使用している動画配信が本格的に始まる。これまでの発信手段に加え、その動画配信が有効なものとなるようやり方を模索し、定期的な配信に努めていく。</li> <li>引き続きGoogleClassroomを活用し、紙面での手紙配布からデータ配信へと移行を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Googleclassroomなどネットを活用し、保護者と園がつながれるとよい。</li> </ul>
	子育て支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭と地域と園とで連携した子育て支援の推進を行う。</li> <li>園の教育方針や、幼児教育について保護者に理解頂くために、保護者研修会を企画したり、参観日などを利用して保育について理解を深めてもらう場をもつ。</li> <li>保護者同士がコロナ禍なりの交流がもてるような場をもつ。</li> <li>子供たちがみずほの地域のよさを知ることができるように、地域の方と交流をもったり、地域に出向く機会をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAと連携し、1年間に1回以上、保護者が集まって共に学び合えることができる保護者研修会を開催する。</li> <li>園での子供たちの様子や、幼稚園の教育方針を直接知って頂くために、普段の園児の様子を動画等で知らせる場を学期に1回以上もつ。</li> <li>地域の公園や、瑞穂小学校に出向き、子供たちと共に地域のよさを感じる機会をタイミングよく設ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAと連携し、子育て支援における保護者研修会を年に1回開催することができた。研修会の中では、保護者同士が語り合える場をもつことで、コロナ禍の中でなかなかコミュニケーションをとれなかった保護者の方から嬉しいとの声があった。</li> <li>保護者研修会のタイミングで、普段の子供たちの様子を動画で知らせることができた。今後はタブレットを使用して随時配信していけるようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会を開催することができたことはよかったが、このような研修会に参加しない、できない保護者に対してどう啓発していくかが今後の課題である。保護者の背景はさまざまであり、個々への対応が求められる。職員が子育て支援に対する知識を身につけて対応していく必要性を感じた。</li> <li>瑞穂小のPTAと情報共有し、みずほまつりに親子で参加することができた。今後も小学校との連携が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者への対応は、以前より難しくなっている。</li> <li>保護者同士のつながりを活かしながら、保護者支援ができるとうい。</li> </ul>

学校関係者評価総括

・教育目標や重点目標に向かい、「語り合い」を大切に職員が連携して保育に取り組み、成果を上げている。それが園の明るい雰囲気と共に伝わってくる。

次年度に向けた重点的な改善

・今年度の成果と課題を職員間で共通理解し、共有することが大切である。それらを次年度の教育に活かし、子供が「行きたい幼稚園」、保護者が「子供の成長を喜べる幼稚園」、地域が「共に子育てをする幼稚園」になることに重点を置く。